# 東京大学 留学プログラム報告書 (プログラム名: 2012 IARU Global Summer Program)

所属学部/研究科·学年(留学時):農学部 4年生

留学先大学・参加コース: GSR Sustainability and Institutions

コース期間: 2012年 7月2日 ~ 2012年 8月 10日

卒業・修了後の就職希望先: 7.その他( 海外大学院進学

## 1. 留学先大学の概要

Yale 大学は、Ivy League の一つであり、アメリカ屈指の私立名門校です。 Connecticut 州の New Haven という小さな 町にあります。 Yale 大学は法律や経済など文系科目が特に強く、クリントン元大統領など有名な政治家を多数輩出しています。 また、 Yale 大学の School of Forestry&Environmental Sciences はアメリカで最初の環境学部であり、アメリカでもトップレベルです。 大学の主な建物は Old Campus と New Campus に集中しており、歴史的で緑が多いとても美しいキャンパスです。

### 2. 留学の動機

世界的トップレベルの大学である Yale 大学で、6週間という長期間に渡って寮で生活し、講義を受けることで、英語力向上に加えて、環境経営という将来専門にしようと考えている分野への知見を深めることができると考えました。また世界9大学から集まる大学生と共に講義を受け、生活することは、アメリカ文化だけではなくそれぞれの学生の出身国の文化についても深く学ぶ機会になり、将来各国のリーダーとなる優秀な素晴らしい仲間ができると思いました。また、大学卒業後、Yale 大学の School of Forestry&Environmental Sciences の修士課程に出願しようと考えていたので、Yale 大学での実際の生活を事前に体験し、同時に教授や学生との人脈を形成できる貴重な機会だと思いました。

# 3. 留学の準備

①プログラムへの参加手続き(申請にあたってのアドバイスなど)

推薦状の依頼が必要なので、早めに準備を始めた方がいいと思います。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

アメリカの F1-ビザの取得には全体で恐らく3 週間ぐらいかかったと思います。Yale 大学から F-1 ビザ申請に必要な書類が届き次第早めに手続きを開始した方がいいです。また、ウェブでビザ申請の手続きをする際に、面接免除の依頼項目があるのですが、体の不自由な人のみに適用されて一般人は利用できないため、Yesとしてもビザの郵送されません。また一端 Yes としてしまうと大使館に電話をしてその設定を解除してもらうのにさらに5日間ほどかかるので注意して下さい。

③保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

生協の学生用損保保険

④留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

教務課に単位認定を依頼すると基本的に認定されないと言われたので、工学部の友人が去年認定されたという例を 上げると、教授の承認が必要といわれ、教授に単位認定を依頼しました。そして、教授が教務課に伝え、教務課が会 議にかけた上で、単位認定がされるということでした。ただし、事前に何単位が認定されるかは決まっていませんでし た。

⑤語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEFL は去年の時点で必要な点数は取得していたので、語学関係の準備は特にしていません。

⑥日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

Iphone に紛失時に利用できる携帯捜索アプリをインストールしておくべき。

#### 4. 留学生活について

①住居(住居の種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

Berkley College の寮に滞在していました。Yale 大学に到着した日に、スイーツメイトや部屋番号を伝えられました。 私はデンマーク人の学生と二人でコモンルームをシェアしていました。それぞれシングルルームでした。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

部屋はクーラーがついてませんでしたが、朝夕は涼しかったので、快適に過ごせました。昼間は非常に暑かったです。大学から最寄駅まではタクシーで10分、徒歩で30分くらいで、無料シャトルバスが常に運行していました。食事は朝昼晩と Dining Hall でビュッフェ形式の食事をとることができました。お金はクレジットカードを利用するかまたは、トラベレックスのキャッシュカードを用いて親から送金してもらっていました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

大学周辺は治安が悪いのですが、夜は Yale 大学のセキュリティースタッフが常に寮の周辺を巡回してくれていたので、寮の周りは特に危険な感じはしませんでした。ただ、大学から少し離れた場所は夜中に歩くとホームレスが結構いて一人で歩くのは危ないと思いました。

④留学に要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

合計約70万:航空券18万(成田—NY JFK-サンフランシスコー成田)、授業料1500ドル、寮滞在費と DiningHall での食費(朝昼夕\*週7日)約3400ドル、教科書代 約5000円、サマースクール中の娯楽費(サンフランシスコ滞在中を除く)約10万

(5)奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額など)

FOTI(Friends of Todai) 3000ドル、Banco 財団(Yale 大学)1500ドル、JASSO 短期滞在奨学金 16 万

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

Yale 大学が企画してくれた、ダンスパーティー、バレーボール、ダンスレッスン、国連ツアー、映画鑑賞、アウトレットショッピング、食事会)、週末に小旅行で友人と、NY、ボストン、ワシントンに行きました。

#### 5. 学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。)

Sustainability and Institutions

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

毎授業約100P の読書課題(書籍や論文)に加え、mid-term homework, idea lab や final report の課題がありました。

授業形式はディスカッションが多く、学期後半は Yale 大学のゲストスピーカーから話を聞いたり、コロンビア大学に訪問し、スタッフや教授から講義を受ける機会もありました。上記すべて印象に強く残っていますが、idea lab では火曜に Yale 大学のサスティナビリティー関連の問題点を指摘、分析し、木曜日にプレゼンするようにという課題が出され、パートナーのシンガポール大学の学生と夜遅くまで議論し準備したことや、final report ではパートナーの北京大の学生と約23P のレポートを約一週間で書き上げたことは特に印象深く、学び深かったです。

## ③学習・研究面でのアドバイス

授業が始まると課題図書以外の課題で忙しくなるので、事前に分かっていれば、課題図書を渡米前に読んでいった 方がいいです。

#### 4語学面での苦労・アドバイス等

議論形式でかつ、教授の英語のスピードが速かったので、最初は理解できても、発言するのが苦労しました。また、ネイティブスピーカーではない(アメリカ英語ではない)学生がほとんどだったので、各国の英語の発音に慣れるのが大変でした。特に、シンガポール人の英語はアクセントや発音が大きく異なるため聞き取りづらく、オーストラリア人の英語はかなり早口であったため、聞き取りに苦労しました。ただ、日常生活でなるべく話す機会を増やすと、発音に慣れてきて、数週間もするとふつうに聞き取れるようになります。

## 6. 留学先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

語学面のサポートは特にありません。学習面ではスタディーブレイクを大学が主催してくれていたり、24時間使用できる図書館が各寮にあったのは大変ありがたかったです。生活面も、大学がほぼ毎日いろんなアクティビティーを企画してくれ、かつ各寮の棟ごとに Yale 大学生のカウンセラーがついてくれていたので困ったことがあった時はいつでも聞くことができました。

## ②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

24時間使用できる図書館が各寮にあり、どの寮の図書館も利用できました。プール、ジム付きのスポーツジムを無料で利用できました。3 つの寮の Dining Hall で食事できました。Yale 大学の建物内または周辺は Wifi が整備されていました。

#### 8. その他

- ①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
- ②今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

他ではできないような貴重な経験ができるので、少し無理をしてでも、参加することをお勧めします。また 授業での学びを最大限高めるために、英語はできるかぎり向上させてから行くべきです。

④その他東京大学のホームページ等に掲載可能な留学中の写真があれば添付してください。

## 2012 IARU Global Summer Program 学習成果に関するレポート

私は IARU の GSP で Yale 大学の "Sustainability and Institutions"というコースを 7月2日から8

月 10 日までの約 6 週間参加しました。授業は毎週火曜日と木曜日の 13 時~16 時 15 分で Julie Newman という方が教えてくれました。彼女は Yale 大学のサスティナビリティーオフィスの局長を務め、かつ School of Forestry&Environmental Sciences で講師もしています。一回の授業あたり論文や書籍から約 100 ページの読書課題を出されましたが、それらの書籍や論文はとても興味深い内容のものばかりで、 非常に多くのことを学びました。例えば、"Our Common Journey: A transition toward sustainability.(1999)."という書籍からは、サスティナビリティーの概念やそれを測るツールについて学 び、"A necessary revolution: How individuals and organizations are working together to create a sustainable world. (2008)"からは実例とともに会社などの組織をより持続可能な運営するように変革す るための理論やスキルを学びました。前半四回の授業は、課題図書を呼んでそれぞれがどのように考え たかについて議論し、Julie が 40 分程度パワーポイントを用いて講義し、さらにグループに分かれてテ ーマに沿って議論するという形式で、東大の講義中心の授業形式になれていた私には新鮮であると同時 に難しくもありました。UC Berkley、Yale 大学、オーストラリア国立大学の学生が英語が流暢なのはも ちろんのこと、他のアジアやヨーロッパからの学生も英語を話すのが非常に上手く積極的であったので、 議論はいつも途絶えることはありませんでした。教授の早口の英語や他の学生の色んなアクセントの英 語を聞きとり、理解することはできても、瞬時に自分の意見を発信するのは非常に難しく感じました。 また授業の一環で、ニューヨークのコロンビア大学に行き、コロンビア大学のサスティナビリティーの 活動に携わっているスタッフや、関連の研究を行っている教授から講義を受ける機会もありました。後 半の四回の授業では、Yale 大学で物資調達、廃棄物処理、施設管理、建物管理や農場管理を担っている スタッフをゲストスピーカーとして招き、Yale 大学での現在の取組みや課題、そして今後のビジョンに ついて伺うことができました。ファイナルレポートが7月末に課題として出されました。一人または二 人一組で、Yale 大学をより環境に優しい大学にするためにエネルギーや交通機関などの切り口から分析 し、改善策を考えて、20ページ程度のレポートを作成するというものでした。私は、北京大学のCynthia という学生と一緒に、Lighting System について取り組むことにしました。課題発表から締め切りまで 2週間も無かったため、毎日図書館などで話し合い、一緒に作業しました。Julie が Yale 大学のスタッ フを紹介してくれるとのことだったので、Facility 室のスタッフに連絡を取り、インタビューを行いまし た。その他にサスティナビリティー室で、教育担当のスタッフなど、2,3人にインタビューを行い、 分析や提案に必要な情報を集めました。私は人間の行動を変えることで省エネルギーを達成するという アプローチに興味があったので、そちらを主に担当し、北京大学の友人は数学と経済学を専攻していた こともあり、新しいテクノロジーやデザインの導入というアプローチの方を主に担当しました。今まで、 誰かと一緒にレポートを書いたことはなかったのですが、二人で取り組むことで互いの弱点を補い、自 分の思い浮かばなかったアイデアを取り入れることが出来たので、大変ではありましたが、非常に貴重 な経験が出来たと思っています。一緒に作業する中で、今までの経験や、互いの将来の夢など深い話も することができました。授業最終回には、大会議室で自分達のファイナルレポートの内容を他の学生に パワーポイントを用いて紹介しました。それぞれのグループが、代替エネルギー、廃棄物処理、食料、 紙の利用、交通など異なるテーマでファイナルレポートに取り組んでおり、非常に興味深かったです。 このサマープログラムではプレゼンを行う機会が合計4回あり、プレゼンテーション力を向上させる上 でも非常に役に立ちました。

サマースクールの間、GSP の学生は皆 Berkley Collage の寮に滞在していました。私はシングルルームと、デンマーク人の学生との共有部屋を一つ割り当てられました。Yale 大学の寮の建物はどれも、歴史的でとても美しかったです。食事は朝昼晩と Yale 大学の食堂で取ることができました。ビュッフェ形

式で、野菜やフルーツは常に豊富にあり、料理も中華やイタリアンなど幅広く、食事で困ることは一切 ありませんでした。Saybrook Collage の食堂は、壁には人物画が飾ってあり、天井にはシャンデリア がぶら下がり、テーブルは木造の長テーブルといったまるでハリーポッターに出てくる食堂のようでし た。食事の時間帯に食堂に行けば必ず GSP の友人と会ったので、食事の時間は他の学生と交流する貴重 な時間でもありました。各寮の地下には、卓球台やビリヤード台があり軽食が食べられる Battery と呼 ばれる部屋があり、友人とそこで遊ぶこともしばしばありました。各寮に24時間利用できる図書館があ り、その他にもキャンパス内に 2 つ大きな図書館がありました。部屋はクーラーが着いていないため、 授業の無い日は、たいてい図書館で勉強していました。平日の夕方や休日は Yale 大学が無料または割安 で参加できるアクティビティーを用意してくれており、私は出来る限り参加するようにしていました。 例えば、アメリカ建国記念日には Pierson Collage の中庭でパーティーが開かれ、パーティーの後は近く の丘の上から花火を見ることができました。他にもダンスパーティーやプレミア映画鑑賞会などがあり、 他の GSP の友人と一緒に参加して仲良くなるいい機会でもありました。こういったアクティビティーは 本当に充実していて、勉強と遊びどちらも思いっきりやるアメリカの大学生活を味わうことができまし た。週末には、GSPの友人数人とボストン、ニューヨーク、ワシントン DC やフィラデルフィアに小旅 行に行きました。GSP に参加した学生の出身国は、スイス、デンマーク、シンガポール、マレーシア、 オーストラリア、アメリカ、中国、インド、ベトナムと非常に多様で、彼らとの交流を通して、彼らの 母国について学び、かつ興味を持つようになりました。日本と異なり、デンマークでは離婚後も子供達 はどちらか片方の親とのみ暮らすのではなく、交互に父親や母親の家で暮らすこともあるという話や、 オーストラリアでは都市のスプロール化が問題になっているという話など、本当に色々な話を聞くこと ができました。また、仲良くなったデンマーク人の友人に、日本の「年上を敬う」、一歳年上でも丁寧語 を使う慣習は、年少者が年長者の誤りを指摘できない雰囲気を作り上げているのではないかという批判 をされた時は非常に驚きました。今まで日本で生まれ育った私は、「年上を敬う」ということについてよ く考えることもなく、当然のこととして受け入れていたことに気づいたからです。

このサマープログラムを通して、環境経営を学び、アメリカのトップスクールの大学生活を体験し、そしてアメリカの文化や歴史はもちろんのこと、GSPの学生の出身国についても深く学ぶことができました。このプログラムで世界中にできた優秀な友人は私の一生の宝だと思っています。すでに年末には香港とベルリンで同窓会をするという話が上がっています。この国外であっても皆が集まれる場所で同窓会を企画するという姿勢に国境をものともしないスケールの大きさを感じるとともに、彼らとなら国は違えど今後も末長く連絡を取り合っていけるだろうという確信が持てました。

もともと大学卒業後にアメリカの大学院で環境科学を学びたいと思っていたのですが、このサマープログラムを経てさらに気持ちは強くなり、かつそこでの生活をより具体的に想像することができるようになりました。いい意味で幻想が無くなり、院での学びを大きくするために、大学卒業後 1 年専門に関連のある分野でインターンしてから院留学をしようと思うようになりました。ただトップスクールに留学することがゴールではなく、そこで何を学び、どう過ごし、そして卒業後にどのように社会に貢献していけるかが重要であると考えるようになったからです。

世界9大学から集まる学生とともにYale大学で6週間のサマースクールに参加するという本当に貴重な経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

## 東京大学 留学プログラム報告書 (プログラム名: 2012 IARU Global Summer Program)

所属学部/研究科・学年(留学時):法学部 第2類 3年

留学先大学・参加コース: Yale University/Sustainability and Institutions

コース期間: 2012年7月2日 ~ 2012年8月10日

卒業・修了後の就職希望先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体 5.民間企業

6.起業 7.その他( )

## 1. 留学先大学の概要

参考 HP http://www.yale.edu/

夏季休暇中は主に海外の大学生・高校生に向けてのサマースクールを実施しています。

#### 2. 留学の動機

元々アメリカで留学することに興味があり、このプログラムは東京大学が提供する留学プログラムのうちアメリカで実施される数少ないものであったため応募しました。

## 3. 留学の準備

①プログラムへの参加手続き(申請にあたってのアドバイスなど)

申請書類の提出時期が期末試験の時期と重なるのでそのあたりも注意しておくといいと思います。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

F-1 ビザ(学生ビザ)、アメリカ合衆国大使館(赤坂)、2 週間弱。

参考 HP <a href="http://www.ustraveldocs.com/jp\_jp/jp-niv-typefandm.asp/">http://www.ustraveldocs.com/jp\_jp/jp-niv-typefandm.asp/</a>

#### 必要な手続きは

①ビザ申請用ウェブページ(<a href="http://www.ustraveldocs.com/jp\_jp/index.html">http://www.ustraveldocs.com/jp\_jp/index.html</a>)より 1. ビザ申請料金を支払い 2. 大使館での面談の予約をとる

②必要な書類(下記参照)をもって大使館で面談をする

約1~2週間後に提出書類とともにビザが郵送で返却される

## 必要な書類は

パスポート

I-20、SEVIS 費用支払済証(先方より送られてくる)

DS-160(インターネット上で記入、多少時間がかかる)

学費を支払った/支払えることを示す文書(領収書、預金証明等) 等

③保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

クレジットカードに付帯する保険(追加費用なし)のほか、生協が勧めていた AIU の海外旅行保険に加入(40 日間で 26,500 円)。

④留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) (法学部)履修について、このプログラムであれば通常科目の履修と留学分の単位申請が可能といわれました。 試験は9月に実施されるため振替等の手続きは不要でした。

出発前に留学許可申請書を提出、帰国後に単位認定申請書を提出。

⑤語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEFL iBT 108/120

洋画を見たり洋書を読んだりするようにしました。

⑥日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

携帯電話含め生活用品はだいたい現地で安く手に入ります。日本食がなかなか手にはいらないので気になる人はインスタントの味噌汁のパックや緑茶等を持って行くといいのではと思いました。

## 4. 留学生活について

①住居(住居の種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

住居の種類:寮

宿舎の様子: 寮の出入りは鍵を使用しました。IARU の学生は皆同じ寮でした。 寮の地下には卓球台やビリヤード台など息抜きもできる設備がありました。



#### 寮の写真です。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候:夏は東京より若干涼しく湿度も低かったです。雨は殆ど降らず降ってもすぐ止むという感じでした。

大学周辺の様子:大学が街の中心という感じであまり大きい街ではありません。治安もかつてに比べてかなり改善したようです。

交通機関:街を移動する場合はほぼ徒歩で間に合いますが無料のシャトルバスも運行していました。

食事:基本的には寮の食堂で食事をしますが付近には飲食店も多く外食もできます。

お金の管理の方法: クレジットカードが便利でした(ほぼどこでも使える)。キャッシュカードももっておくと一応安心です。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

留学先の治安:今では市内の治安はかなり改善しているようで安心です。大学側はかなり学生の安全に配慮しており 夜出歩くのが不安な場合は無料で警備の人がエスコートしてくれるサービスもありました。

④留学に要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

参考 HP http://www.iaruni.org/gsp2012/YALE2 の"Costs"

航空賃:約25万円

教科書代: HPでの参考費用は 100ドル前後でしたが実際は全部で 30ドル前後。

授業料:1575ドル

家賃:1485ドル

交通費:空港から大学までは移動手段にもよるが50ドル前後

娯楽費: HP での参考費用は週 100ドル。

学費・寮費について提示費用は先方支給の奨学金適用後(半額免除)のようでした。

(5)奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額など)

JASSO 160.000 円

Banco Santander 1700ドル → 134,130 円 (1ドル=78.9 円換算)

計 294,130 円

いずれも東大経由での振り込み。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など) 学生スタッフの方たちが週末や夜のイベントを企画してくれていました。それ以外にも各自で企画してボストンやニューヨークなど付近の街に出かけていったりしました。



企画で国連見学の後に Yale Club NY で昼食を取りました。左は Yale Club NY、右は国連の写真です。

- 5. 学習・研究について
- ①履修した授業科目のリスト(そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。)
- Sustainability and Institutions
- ②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

前半は理論面に焦点を当て座学中心でした。回にもよりますが授業あたり100~200ページくらいの読書が課されました。後半は実践面に焦点を当てYaleの様々な施設やColumbia Universityに見学に行きました。最終課題は自ら設定した課題に対して20ページ前後の実践的な最終レポートを書きプレゼンテーションを行うことでした。

③学習・研究面でのアドバイス

授業は週2回、約3時間なので課題を考慮しても比較的時間的ゆとりはあるかと思います。

4語学面での苦労・アドバイス等

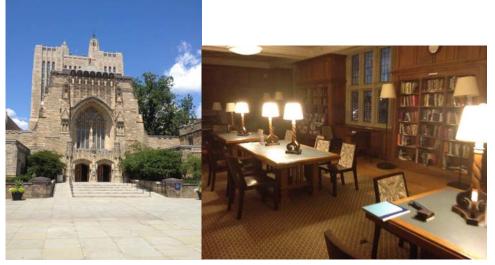
英語を喋ったり書いたりする機会は日本ではなかなかないのでこうした機会を活用できるといいと思います。

- 6. 留学先大学の環境について
- ①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

夏季のプログラムの参加者は全員留学生でしたので不安は少なかったです。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館:大きい図書館が2つ、個室の自習室もありました。その他に寮に24時間開放の図書室/自習室がありました。



左が大きい図書館、右が寮の図書室です。

スポーツ施設:トレーニング施設・体育館・プール等は無料で使用することができました。



ジムの写真です。

食堂:ビュッフェ形式でした。



ある日の朝食です。

PC 環境:キャンパス内は WiFi が飛んでいました。学内 WiFI 経由であれば数多くの論文にアクセスすることが出来ました。寮にはプリンターと複数の PC がありました。

また保健センターも小さな病院ほどの規模があり安心でした。



## 8. その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物 先方より送付された留学準備についての冊子、および HP。

②今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学にいって何を得るかは自分次第だと思うので短期・長期にかかわらず興味がある人は積極的に機会を探してみるといいと思います。

④その他東京大学のホームページ等に掲載可能な留学中の写真があれば添付してください。

個人情報の観点から人物の入った写真は東京大学のホームページ等に掲載可能かどうか判断がつかなかったので (上項目も同様)建物や街中の写真をいくつか添付します。

# 2012 IARU Global Summer Program 学習成果に関するレポート

This past summer, I spent 6 weeks at Yale University as a participant of the IARU Global Summer Program, taking the course titled "Sustainability and Institutions". I, as an undergraduate student in Tokyo studying Law, had no backgrounds in environmental studies but, as this was intended to be an introductory course, I saw this as an opportunity to have a different learning experience and broaden my horizons. Spending a few weeks out of my home country was something I had never done before, and I was looking forward to the summer time experience (in and out of the classroom) at Yale, one of the world's most prestigious universities.

I would like to first write about what the course I took was like. The first half of the course focused on theories and we would have lectures followed by discussions based on our reading assignments. From the title of this course, I was thinking that we would learn about science and technology concerning the environment but it turned out that there was also emphasis on human behavior and change management, trying to figure out how we could make people look at the world differently, how we could make people think about sustainability. Being something different from what I study usually, it felt like a challenge at first but as the classes went on I gradually started to get a better understanding and find it very interesting. The second half of the course focused on how theory was put into practice; we went to see all the different kinds of facilities in Yale that were committed to building a sustainable campus (e.g. dining hall, building, waste management etc.) and heard interesting stories about their challenges from people who were in charge in each sector. We also had one day where we went to Columbia University in New York to take a look at their attempts and challenges. For our final project, we were to choose a topic of our interest, interview staffs, and write a paper and give a presentation with a proposal for Yale to build a more sustainable campus. For my project, I chose Yale's waste management as a case study to see how setting goals and placing responsibility on different people could change human behavior to make a more sustainable waste management system. We did not have classes on the last week, and I spent my time reading relevant papers, interviewing people, and doing my writings. As

and stimulating. Compared to the classes back in Japan, which were mostly mass lectures, I think there was much more human interaction involved which I found very fresh and enjoying. It was also a great opportunity for me to study and devote my time to something different from my major, something that becomes harder to do the more exclusive your studies become. Besides the concrete things I have learned throughout this course, I feel that this academic experience has helped me gain a better understanding of how theories should be put into practice and its difficulties.

As the classes took place only twice a week, on Tuesdays and Thursdays, though we had readings and assignments to do in between classes, I felt that there was a lot of free time. Some people would spend their time doing school work for their home universities (not every university was on summer holidays during the program), some people would go to the gym (which was free of charge for summer students) and work out, some people would enjoy engaging in events Yale student staffs have planned out for the summer students and so on; we had lots of options. As we all lived in the same residential college, all the IARU Global Summer Program students had lots of time to engage in conversations and know about each other outside of classroom as well. I felt very fortunate to have had this opportunity, as this was nothing like what I would experience back in Japan. The time I spent with outstanding classmates from around the world was full of fresh, stimulating and sometimes thought-provoking events and

conversations.

The 6-week experience at Yale has been an irreplaceable one. Focusing on a totally different discipline, taking a break from my usual studies, has allowed me to broaden my horizons and consider other options after finishing my undergraduate school, the simple straightforward not just going-to-law-school-because-you're-a-law-student option. I have always been interested in studying abroad, interacting with students from other countries since I entered university and this intensive program be it only a month and a half all the more made me want to seek for future opportunities of the kind. Though I am not sure whether I will go to graduate school directly after I finish my undergraduate program or after working for a few years, graduate schools abroad will definitely become an option I would be considering for my future career.

The wonderful and fruitful summer experience at Yale would not have been possible had it not been for the JASSO scholarship. Last but most importantly, I would like to express my sincere gratitude to JASSO for their generosity and wish to say a special thank you for the great 6 weeks.

# 東京大学 留学プログラム報告書 (プログラム名: 2012 IARU Global Summer Program)

所属学部/研究科·学年(留学時): 経済学部経済学科4年

留学先大学・参加コース: Yale University / Sustainability and Institutions

コース期間: 2012年7月1日 ~ 2012年8月10日

卒業・修了後の就職希望先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体 (5.民間企業

6.起業 7.その他( )



#### 1. 留学先大学の概要

NYCから電車で2時間ほどのNew Havenという街にある私立大学。クリントン元大統領やブッシュ元大統領などを輩出しており、アメリカ東部の名門大学群アイビー・リーグに所属している。

#### 2. 留学の動機

現在ゼミで扱っている事柄について海外で学び、海外の学生と議論を交わすことで、視野を広げるとともに将来の海 外でのキャリアに活かしたいと思ったから。

### 3. 留学の準備

①プログラムへの参加手続き(申請にあたってのアドバイスなど)

私は SOP を外国の友人に添削してもらいました。日本の志望理由で喜ばれることが外国の文化では重んじられないこともあるため、一度見てもらって良かったと思います。また TOEFL は事前の準備もほとんどなく慌てて取り、納得のいく結果ではなかったため、前もって準備をしておくことをおすすめします。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

F1 ビザを取得しましたが、申請時私たち5人中4人がしてしまった間違いを書いておきます。オンラインでフォーム入力する際、「私は~の条件を満たしています」という文章にチェックを入れるところがあるのですが、そのうちの一つが「書類で申請をする条件を満たしています」というもので、面接なし書類のみの申請は子どもであったり特別な事情があって東京まで来られなかったりという条件を満たしていなければすることができません。これにチェックをしてしまうと必要書類が届かず、解除してもらうのに1週間くらいかかっためその分手続きが遅れてしまいました。

③保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

イエール滞在中は、イエールが自動的に保険に入れてくれます。そのため必要なのは行き帰りの飛行機や、プログラム後に旅行する際の保険のみでした。私はクレジットカード保有者に自動的に適用されるものを使うつもりで渡米しました。

④留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) このプログラムは7月から始まるため、4年生夏学期の試験は全く受けられませんでした。わたしは大学4年生時の留学を前々から希望していたため、3年次までにほとんど単位を取得し、今学期は留学後に集中講義を受けるのみとしました。またゼミは3週間ほど欠席することになったため教授に予め了承を得てから留学申請をしました。

⑤語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

出発前の英語レベル: 小学生の頃カナダに住んでいたため専門的な話でなければコミュニケーションが取れるレベ

ル。

このプログラムは「英語を学ぶ」ためのものではなく、英語を母国語とする学生も多く参加する「英語を使って学ぶ」ものですので、申請時点でそれなりの語学レベルは求められると思います。

⑥日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

たいていのものは手に入ります。ただし薬や美容に関するもの(洗顔・化粧水等)は自分に合うものを持参した方が良いと思います。また、このプログラムのフェイスブックページがあったためプログラム前から参加者と交流できました。フェイスブックでコミュニティがあるか探してみるといいと思います。

#### 4. 留学生活について

①住居(住居の種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学の寮に滞在。大学が自動的に入れてくれ、費用は留学費に含まれていました。セキュリティはしっかりしており (部屋にたどり着くまでに4つ鍵があります)、寮内に勉強できる図書館もあります。地下にはビリヤード台や卓球台な どもあり、同じ棟に住む学生と交友を深められました。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候: 寮にはエアコンがありませんでしたが、窓を全開にすればぎりぎり耐えられる程度の暑さでした。扇風機を買っている学生もたくさんいました。暑すぎる夜には Common room というクーラーの効いている共有スペースが睡眠場所として開放されました。

大学周辺: イエールの建物がほとんどを占めています。生活用品・食べ物・衣服などの店はありますが、数は多くないため自由な選択はできません。イエールの学生はオンラインで衣服等を買っているそうです。

交通機関:キャンパス内は歩ける広さですし、15分おきに走っているイエールの無料シャトルバスがキャンパス内・駅までの送迎をしてくれます。また、シャトルバスが走っていない夜中の時間帯でも電話をすれば好きなところに連れて行ってくれます。

食事:基本的に食堂で食べていました。食堂での食事は「6. 留学先大学の生活環境」に詳しく書いています。しかし GSP 参加生30人は「毎日食堂だと飽きてしまうから」と週に一回外食する日を設けていました。大学の近くには"PePe's""Sally's"など有名なピザ屋さんがあり、よく行っていました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

留学先の治安: 夜は治安が悪いそうで、夜は街中に警備員が待機していました。夜中にひとりで出歩かなければならないときは警備員が引率してくれます。

医療機関:アメリカの医療費は高いですが、留学中病院にお世話になった友人は保険がカバーしてくれたと言っていました。小さな怪我や病気であれば大学内の無料診療所を使うことができます。

心身の健康管理:心理に関する相談所があります。ただし留学は本当に充実しており楽しかったため心配事はほとんどありませんでした。体調面では、普段以上に健康に気を付けた食事を摂るようにしました。

④留学に要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空賃:17 万前後

授業料:約60万(ただし奨学金でほとんどをカバーしました)

教科書代:各\$20×4

家賃:授業料に含まれていました。

交通費:キャンパス内は徒歩圏です。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額など)

Banco Santander:授業料の半額を負担していただきました。イエールの紹介です。

また、同じところから IARU-Santander GSP Scholarships という名前で 1700 ドルの奨学金もいただきました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など) 週1回の地元のダンスレッスンに通いました。1レッスン5ドルで、黒人の先生方によるレベルの高いレッスンをしていただきました。また週末はボストン、ワシントンDCなどに旅行にプログラム参加者たちと行きました。また、イエール側 が週末に様々なイベントを催してくれたため、週末は毎回忙しかったです。

## 5. 学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。)

Sustainability and Institutions

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

持続可能な発展を目指すために組織・機関が現在何を行っているか、そしてこれからどうしていかなければならないか、ということについて講義を受けたり議論を交わしたりしました。コロンビア大学に話を聞きに行ったり、イエールが行っている環境活動をフィールドワークを通して学んだりと、座学だけでなく教室を離れることも多くあり、毎回の授業が刺激的でした。宿題は毎回 100~300 ページの読み物が課されました。評価の基準は参加態度、中間レポート、期末レポート、最終プレゼンなどでした。

#### ③学習・研究面でのアドバイス

海外の学生は質問や議論に積極的なため、日本にいるとき以上に手を挙げて発言すると良いと思います。先生に「非常にいい質問だ」と褒められたり、授業後に「あの意見良かったよ」等と他の学生に言われたりするのももちろん嬉しかったですが、「いい発言をしよう」とするより「今自分の持っている疑問を解決しよう」という気持ちの方が大事だと思います。「知らない・分からないことは恥ずかしいことではないし、分かったふりをすることが一番良くない」という風潮を非常に感じました。

## 4)語学面での苦労・アドバイス等

語学面での不安があれば講義を録音すると良いと思います。私は常に Weblio(オンライン辞書)を開いておいて、分からない単語が出るといつでも調べられるようにしていました。

#### 6. 留学先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

サポート体制はしっかりしていたと思います。各寮に2人ずつイエールの学生が Counselor として滞在していて、イベントの告知や緊急時に備えてくれていました。私は中間レポートの英語の添削を彼らにお願いしましたが非常に快く引き受けてくれました。同じ学生であるため一緒にイベントを楽しむこともでき、非常にいい経験になったと思います。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館:各寮に24時間空いている図書館が1つずつあるとともに、大きな main library もありました。どの図書館も静かに勉強できる環境でした。

スポーツ施設:大学のジムは非常に大きいことで有名で、多くの学生が利用していました。

食堂:各寮に1つずつありますが summer session 中は3つのみ空いていました。それでも私たちの寮から近かったので問題はありませんでした。寮の食事は非常に美味しかったです。ビュッフェ形式なので自分の好きなもののみを選べますし、お米もタイ米ではありましたが2日に1度は出たので日本食が恋しくなることはありませんでした。アイスバーで色んな味のアイスを食べるのが毎日の楽しみでもありました。

PC 環境:無料 Wifi がキャンパス内全てをカバーしており、ネット環境に困ることはありませんでした。PC は main library にいくつか置いてあるのを見かけましたが普段の作業をする場合は必ず自分のノートパソコンを使いました。

## 8. その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

### ②今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

私がこの留学で一番得られたと思うのはプログラム参加者との絆です。Sustainability and Institutions の 14 名、International Economics の 16 名の、計 30 名の GSP 参加者はひとりひとりが魅力的で、自分の価値観や考え方を大きく変えるきっかけにもなりました。世界の 10 大学から学生が集まって6週間を過ごすことのできる機会はめったにないと思います。心から勧められるプログラムなので是非応募してみて下さい。

④その他東京大学のホームページ等に掲載可能な留学中の写真があれば添付してください。



国際連合本部への見学時



最後の授業後撮影

# 東京大学 留学プログラム報告書 (プログラム名: 2012 IARU Global Summer Program)

所属学部/研究科·学年(留学時): 工学系研究科 修士1年

留学先大学・参加コース: Yale University Sustainability and Institution

コース期間: 2012 年 7月3 日 ~ 2012 年 8月10 日 卒業・修了後の就職希望先: 4.非営利団体 5.民間企業

## 1. 留学先大学の概要

私は 2012 年夏、International Alliance of Research University の Global Summer Program の制度によって、アメリカ Yale 大学において 6 週間留学させて頂きました。私が参加したコースは、"Sustainability and Institution" という今年開設された新しいコースです。Yale Office of Sustainability の Director である Newman 教授を中心として様々なゲストスピーカーを交えた非常に活発で内容の充実したコースでした。このコースには、工学、経営学、経済学、政治学、人間行動学、アフリカ文化学など本当に様々な Academic background を持った学生が集まりました。バックグラウンドの異なる学生同士での議論は非常に興味深く、日々の研究室生活では得難い様々な考え方を知る事ができました。

### 2. 留学の動機

東京大学で学ぶ、海外からの留学生に刺激を受けたことが、今回の留学を志すきっかけになりました。 私は、東京大学大学院に秋入学しました。秋入学の同級生には多くの留学生がいます。東京大学において、留 学生と大学院生活を過ごす中で、彼らの勉学に取り組む姿や日々の生活を楽しむ姿、積極的に多くの人とコミ ュニケーションをとる姿に刺激を受け、自らも外国で学ぶ機会を得たいと考えるようになりました。

#### 3. 留学の準備

①プログラムへの参加手続き(申請にあたってのアドバイスなど)

IARU では様々なトピックのコースが提供されています。自分の興味あったコースを選ぶために、インターネットでいろいろな情報を調べてから応募しました。Facebook の The Official IARU Global Summer Program というコミュニティで、IARU の各プログラムの活動の様子がつかめると思います。Yale の GSP に関心のある方は、Yale Summer Session A, B and ELI this 2012 ので 2012 年の Yale Summer Session の活動の様子がわかります。いずれも Public Community なので、チェックしてみてください。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) ビザ申請は、HP を参考にしながら自分でおこないました。<a href="http://www.applyesl.com/topics/06/us.asp?lid=2">http://www.applyesl.com/topics/06/us.asp?lid=2</a> アメリカのビザ申請は非常に複雑なので、同時期にアメリカに留学する友人と相談し合いながら進めました。 IARU でアメリカに留学する場合、派遣が決まってからすぐに一度、VISA 申請のプロセスをチェックすることをお勧めします。

③保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

クレジットカード(学生専用 LifeCard)に付帯している海外旅行保障で対応しました。

④留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) IARU 派遣が決まった直後に、各授業の担当教授の先生に相談し、試験代替の課題を出題していただきました。 ⑤語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

大学院入学試験に TOEFL が必要だったので、その勉強を継続して IARU 申請時期までおこないました。 TOEFL-ibt で 85 が最高でした。

⑥日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど 留学の書類関係、VISA の書類関係はしっかり準備していかないと、面倒なことになります。 日用品に関しては、現地でなんとでもなると思います。

## 5. 学習・研究について

①履修した授業科目のリスト

Sustainability and Institution

②留学中の学習・研究の概要 (授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

授業前に予習として reading material を読み、3 時間授業中、半分は教授の講義、半分は学生全体での議論というスタイルでした。本コースの担当教授の Julie は、積極的に学生の発言を促してくれ、少し見当違いな質問でもわかるまで親切に教えてくれた印象があります。Midterm(中間レポート)では 1500words、Final term(最終レポート)では 6000words ほどの文章を書きました。Final term ではグループワークが推奨されており、私は Yale 大学で環境工学を学びながら American football の varsity team でプレーしている 学生と組みました。また、プレゼンテーションの機会も 4 度ほどあり、非常にアウトプットの機会に富んだコースでした。

③学習・研究面でのアドバイス

自分のバックグラウンドの学習、研究について深く語れると、学生間での議論を盛り上げるきっかけになれると感じました。また、人前での発言や、少人数でのグループワークなどで力を発揮できる人にとって、非常にexciting なコースだと思います。

④語学面での苦労・アドバイス等

恥ずかしながら、私はクラスの中で一番英語力に劣っていました。しかし、アウトプット面は工夫次第で何とでもなると感じました。一番苦労したのはリスニングです。授業中の official な英語ももちろん、日常会話での少し slung の混じった英語も聞き取る練習をしていくと役立つと思います(アメリカの映画やドラマなど?)。

#### 6. 留学先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

生活面では何の不自由もなく、快適なサポートを受けることができました。一度軽い怪我をしましたが、

Student Hospital において無料で治療を受けることができました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境はどれをとっても非常に"いい"です。

特にスポーツ施設に関しては、巨大なジムがあり、いろいろなスポーツが楽しめるようになっています。

## 8. その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物 NY に行く機会が多いので、NY の旅行本などが役立つと思います。

②今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス Yale での夏は、特別な思い出になると思います。 ぜひチャレンジしてみてください。

④その他東京大学のホームページ等に掲載可能な留学中の写真があれば添付してください。





2012 IARU Global Summer Program 学習成果に関するレポート

# Yale での学習

私は 2012 年夏、International Alliance of Research University の Global Summer Program の制度によって、アメリカ Yale 大学において 6 週間留学させて頂きました。私が参加したコースは、"Sustainability and Institution"という今年開設された新しいコースです。Yale Office of Sustainability の Director である Newman 教授を中心として様々なゲストスピーカーを交えた非常に活発で内容の充実したコースでした。私は、東京大学工学系研究科の修士課程において、リサイクル技術や再生可能エネルギー、温室効果ガスの削減などに興味を持って学習、研究をおこなってきました。Yale 大学は世界の大学の中で、Sustainability Campus 実現への取り組みにおいてパイオニア的な役割を果たしている大学の一つです。Newman 教授はその取り組みの中心組織のリーダーでもあり、Newman 教授の授業は私の興味範囲とマッチする部分が多く、コースのコンテンツにおいても満足する事ができました。このコースには、工学、経営学、経済学、政治学、人間行動学、アフリカ文化学など本当に様々な Academic background を持った学生が集まりました。バックグラウンドの異なる学生同士での議論は非常に興味深く、日々の研究室生活では得難い様々な考え方を知る事ができました。

また、今回のコースを通じて異文化間でのアウトプット型の授業の面白さと難しさを学ぶ事ができました。Newman 教授は非常に明るい女性で、どんな質問でも丁寧に回答し、授業中の議論をいつも盛り上げて下さいました。 3 時間の授業は 2 つにわけられ、前半は教授のプレゼンテーション、後半は学生同士の議論やゲストスピーカーを交えての議論に当てられ、非常に発言をする機会の多い授業でした。

また、学生がプレゼンテーションをする機会も4度ほど与えられ、非常にアウトプット型のコースだっ たと感じます。私の大学経験において、これほどアウトプットの多いコースにはなじみが薄く、また英 語力の問題も多々ありましたが、積極的に授業中の議論に参加する事で心から授業を楽しむ事ができま した。バックグラウンドの異なる学生とのあまりなじみのない議題に対して意見するのは非常にスリル があり、また教授に"いい質問だ"と評価された時の喜びはひとしおです。一方で、何度か話の腰を折るよ うな質問をしてしまったり、うまく噛み合ない議論を展開してしまったりと、アウトプット型授業の難 しさも学びました。課題文章を深く理解する読解力、授業や発言の内容を深く聴く力など、人生を通じ て必要になってくる能力について自分の至らなさを知るいい機会だったとも感じています。コースの最 後には、Final Paper として25ページほどの論文を書きました。Sustainabilityという非常に非具体的 かつ広範囲な概念について、テーマを絞り、そのテーマを選択した理由をロジカルに説明する点が非常 に難しかった事が記憶に残っています。この Final Paper においては2人組でのグループワークが推奨 されており、私は唯一の Yale 大学の正規学生である Kerr 君とグループを組む機会に恵まれました。お 互い環境工学を専攻し、またスポーツという趣味も一致した事で非常に気の合う相手でしたが、抽象的 な概念においてはなかなかコンセンサスをとるのが難しく、総じて Final Paper にはかなり苦労しまし た。このコースを通じて、持続可能社会実現に取り組む世界中の組織の様々なアイデアを学ぶ事ができ たと同時に、異文化交流の面白さや難しさを学ぶことができました。

## · Yale での生活

Yale 大学の大半の学生は、college と呼ばれる寮において共同生活をしています。我々IARUプログラムの学生は夏季休暇中で空いている college を貸していただき生活していました。寮での生活ではほかの学生との距離が非常に近く、初日からすぐにたくさんの友人と打ちとけることができました。どの college も西洋風の洗練された建築で、最初はまるでテーマパークの中で生活しているような不思議な感覚でした。各 college には、それぞれ図書室や中庭、簡単な娯楽施設などが揃えられており、非常に過ごしやすい空間でした。また、各個室には空調施設がなく、久しぶりに冷房に当たることのない健康的な夏を過ごすことができました。Yale 大学での食事は、各 college に併設されている Dining ホールにおいてビュッフェ形式で3食提供されます。種類も豊富で、たまにお米も出るので非常に満足できるものでした。また、生活用品や24h 営業のスーパーマーケットなどもあり、必要なものはすべて徒歩圏内でそろえることができます。先述のとおり、我々は Sustainability Campus の実現というテーマで勉強してきましたが、Yale では「大学は Living Laboratory だ」といわれています。まさにその通りで、衣食住のすべてが大学の敷地内で賄えるという、日本ではなかなか体験できない生活でした。

Yale Summer Project では、合計 30 名ほどの Yale 大学の正規学生たちが councilor として雇われ、生活に関する様々な手助けをしてくれました。彼らによって、平日の夕方には中庭での簡単なサッカーや football などのスポーツが企画されます。また、週末には近くのビーチに行ったり NY まで野球の試合観戦をしたりなど、さまざまな field trip を用意してくれます。これらの娯楽に参加することで、IARU 以外のプロジェクトで Yale に来ている学生とも友人関係を築くことができます。日々の課題とこれらのさまざまな娯楽で、息つく間もなく 6 週間が終わってしまったという印象です。

# ・留学、学習、国際理解への意欲に関する参加前、参加後の変化

この6週間のyaleでの体験で、私が学んだ一番の教訓は自信を持つことの大切さです。海外で学ぶという経験は私にとってこれが最初です。出発前、日本で継続的に英語の勉強をしていたとはいえ、ネイティブの学生と対等に議論できるのかかなり不安がありました。また、人種の違う、容姿体格の違う、

文化の違う人々と分かり合えるのかなど多くの不安がありました。ただ、心に決めていたのはたかが6週間、恥をかいてもいいので思い切りぶつかってみようということだけです。いわゆる根拠のない自信だけで臨みました。この留学で気づいたのは、多くの学生が少なからずそのような不安を持っており、気持ちを共有できたということです。この点を共有できるがゆえに、お互いに相手の積極的な姿勢を受け入れ、評価し、打ちとけることができたとも思います。この6週間で異文化交流に対して確固たる自信が築けたというには程遠いと感じています。ただ一つ分かったことは、根拠がなくても自信を持って積極的に接すれば、たいていポジティブに評価されるということです。ポジティブに評価されることで、少しずつ異文化交流に対しての自信を築いくことができます。IARUのGSPという素晴らしい機会を得、次の自信につながる貴重な体験をさせていただき心から感謝しております。

同時に感じたのは、特に中国や東南アジアなどの学生はこのような積極的な姿勢を若くして備えているという点です。私は修士学生で今年で 24 になりますが、彼らは 18,19 歳の時点で Yale への留学を勝ち取り、自信を持って積極的に行動しており、非常に尊敬に値する友人達でした。私のような若輩者が一般論を語るのは大変恐縮ですが、現在東京大学が主導で入学時期をワールドスタンダードの 9 月に移行するという案は、日本の学生にとって非常に可能性を広げる話だと思います。今後、この案が実現し、若くして国際交流に対して自信を持った多くの日本人学生が現れることを想像すると、非常に夢のある話だと感じています。

## ・参加後の次の海外留学への関心

先述のとおり、Yale 大学でのプログラムを通して、私は異文化交流及び国際理解について更なる自信を築きたいという意欲を得ることができました。次のチャンスでは、更なる自信を築くとともに、学術的な実績も手にしたいと考えています。

最後になりましたが、日本から今回の留学をサポートしてくださった、東京大学本部国際交流課、日本学生機構、本学工学系研究科 OICE 室の関係者の方々、及び工学系研究科システム創成学専攻の教授・事務の方々には心から感謝しております。得難い機会を与えて下さりほんとうにありがとうございました。